

令和2年3月20日

オリンピック聖火が宮城県東松島市に到着

ギリシャ・アテネで採火された聖火は、3月20日宮城県東松島市の航空自衛隊「松島基地」に到着しました。

聖火特別輸送機「TOKYO 2020 号」で到着した聖火は、柔道とレスリングの金メダリスト野村忠宏さん、吉田沙保里さんが受け取り、森大会組織委員会会長に手渡されました。

聖火到着式は、コロナウイルス感染症対策防止のため、規模を大幅に縮小したため、当初予定されていた東松島市、石巻市、女川町の子も達が参加できませんでしたが、航空自衛隊のブルーインパルスが5色のカラスモークで聖火を歓迎し、組織委員会の森会長はあいさつのなかで「オリンピックが、多くの人々にとって希望の道を照らし出すことを望んでいる」と述べました。式典には、田中復興大臣が出席しました。

また、東松島市では、この日を記念し、「スポーツ



(上) 聖火を乗せ、松島基地に到着した「東京2020号」

(中) 式典の様子(聖火皿に点火)

(下) ブルーインパルスのカラスモーク

健康都市宣言」を行いました。宣言式で、渥美市長は、「明るく健康な東松島の未来に向けて、若い世代が語りついでほしい。オリンピックの聖火が東松島市に最初に到着したことを記念して、この宣言をレガシーとして残したい。」と述べました。

前日の夜には、東松島市で震災の犠牲、行方不明になられた方と同じ数の竹あかり1,133本をともしイベントも行われました。

当初予定されていた市中心部での歓迎イベントは中止されましたが、特別輸送機が上空を通過した矢本海浜緑地には五輪の輪が描かれるなど、約5,000人の皆さんが聖火の通過を歓迎しました。



(上)「スポーツ健康都市宣言」宣言式(東松島市庁舎前)
(下右)前夜の「竹あかり」(東日本大震災慰霊碑前)
(下)カラーペーパーでの五輪の輪(矢本海浜緑地)